

# 米中デカップリング論の一考察

— マネジメント研究科でなぜ国際政治経済学を学ぶのか？ —

岡山理科大学経営学部 松村博行

# 本日の内容

- 1 松村の研究について
- 2 経営学と国際政治経済学との接点
- 3 米中デカップリング論の一考察  
ー マネジメント研究科でなぜ国際政治経済学を学ぶのか？ ー

# 1. 松村の研究について

- 出身学部・研究科・取得学位：国際関係学
- 専門：国際政治経済学(IPE)
  - 理論枠組みとしては国際政治学のそれを援用することが一般的
  - 対象とするのは経済イシュー
  - マルクス経済学に源流をもつ政治経済学からの参加も
- この1年の学会発表
  1. 国際安全保障学会(2019/12) 「エマージング技術の管理手法の模索：米国を事例に」
  2. 日本国際経済学会(2020/10) 「米中経済摩擦とエコノミックステートクラフト」
  3. 日本国際政治学会(2020/10) 「STEM人材の受け入れを巡る政策決定－トランプ政権を中心に」

# 1. 松村の研究について

## ● イシュー：デュアルユース技術



写真 イプシロンロケット  
©JAXA



コアとなる要素技術  
は民生用にも軍事用  
にも使える



写真 北朝鮮の新型ICBM  
©NHK

# 1. 松村の研究について

## ● イシュー：デュアルユース技術



写真 瀬戸大橋  
©岡山観光WEB

←電波吸収体→

フェライト



写真 F-117ステルス攻撃機  
©U.S. DOD



## 1. 松村の研究について

### ● イシュー：デュアルユース技術

• 軍事転用可能な技術が民生分野(企業・大学)で誕生する時代

• 2つの政策課題

① 自国で生み出されたDUTを自国の防衛装備の開発に利用する < **防衛産業政策** >

② 自国企業が開発したDUTを敵性国家やライバル国に利用させない < **輸出管理・投資規制政策・移民政策** >

▶ これらはいずれも **国家の論理**に基づく議論であるが、**経済活動の自由原則**や**学問の自由原則**との間で本質的な矛盾がある(特に②)

▶ こうした価値対立はいかに調整されるのか？

## 2. 経営学と国際政治経済学との接点

- 国家の目的：国益
  - ・ 政治的独立、領土保全、国民の安全、経済的厚生、理念の維持・拡大 etc.
- 国益追求の手段：パワー
  - ・ 軍事力、経済力、領土、人口、地理的特徴、国民性 etc.
- パワーの自己目的化：国益を追求する手段であるパワーの拡大が目的となりやすい（国益の構成要素との重複）
  - 自己目的化したパワーをめぐる諸国家間の闘争を**パワーポリティクス**とよぶ
  - 科学技術はパワーの重要な構成要素

## 2. 経営学と国際政治経済の接点

- 軍事力を支える経済的基礎：防衛生産技術基盤
  - 国際政治学において軍事が語られる際、こうした経済的条件は所与のものとして議論されがち
  - さらに、先進国では軍事生産や研究開発のほとんどを民間企業が担うという現実
- 企業経営についての理解が必要となるはず（**企業の論理**）

### 【例】

- レピュテーション・リスク [評判リスク]
- オープン・イノベーション
- グローバルサプライチェーン



## 2. 経営学と国際政治経済の接点

### □ レピュテーション・リスク

- 武器輸出に対する世論の否定的な見方が安全保障政策上の制約となっている（外交手段／規模の経済性）
- 安倍政権下で**武器輸出三原則**を**防衛装備移転三原則**に改め武器輸出のハードルを下げたが、今日に至るまで大型の輸出案件は1件も決まっていない

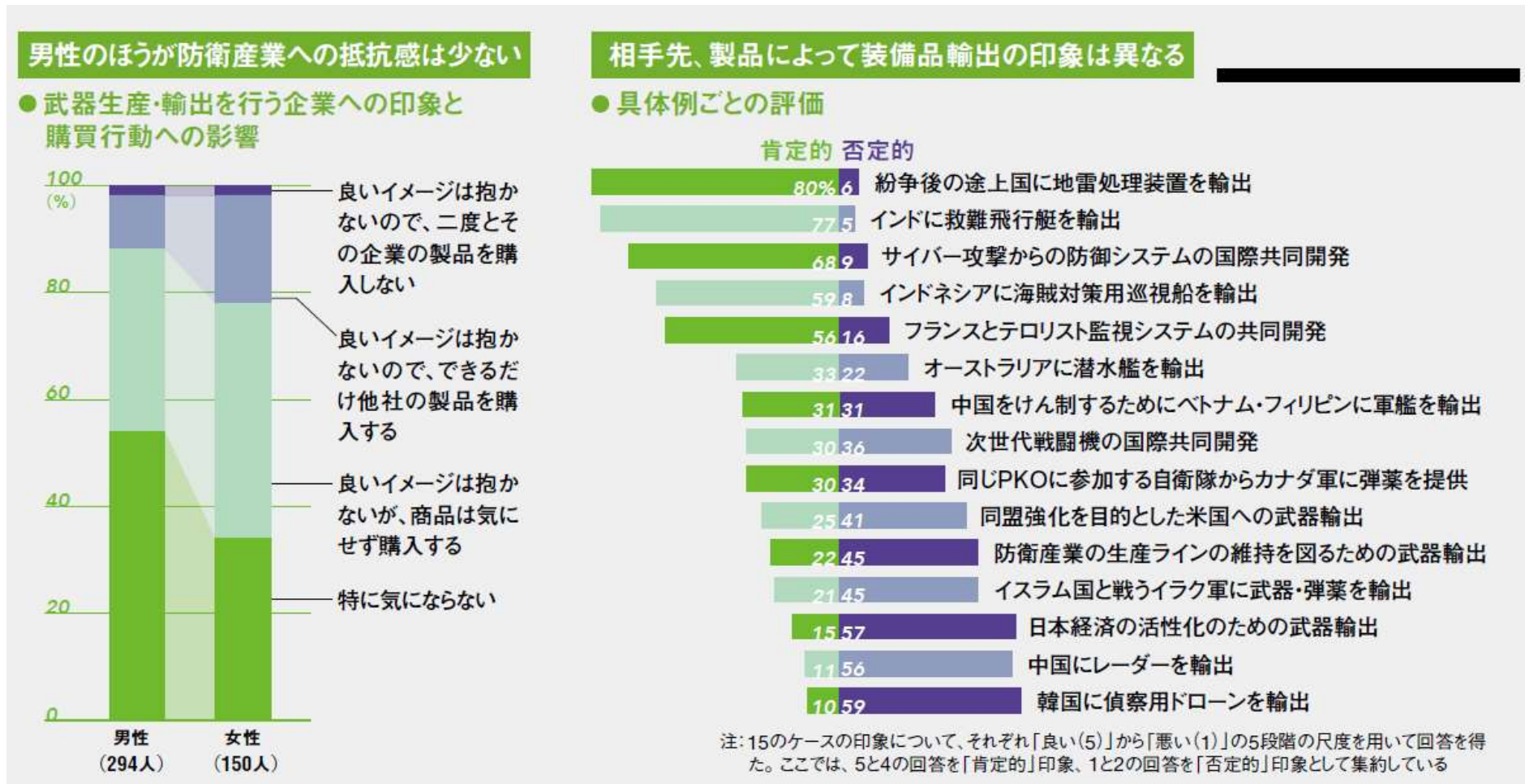
### なぜか？

- 企業にとって大した儲けにならない
  - 武器輸出企業というレッテルを貼られたくない
- ▶ 「武器輸出企業」という情報は、消費者の購買行動に影響があるのか？

## 2. 経営学と国際政治経済の接点

### □ 「武器輸出」に対する国民の忌避意識についての試行的調査

2015年11-12月 大学生 313名 一般 139名



# 3. 米中デカップリング論の一考察

- 国際政治経済(学) ➤ 企業経営へのインプリケーション
- 「地政学的リスク」：国際政治に起因する問題が世界経済の見通しに与える影響
- ユーラシアグループ：「2020年の世界の10大リスク」

## 第2位「超大国のデカップリング」

テクノロジー領域における米中のデカップリングは、ソビエト連邦の崩壊以来、グローバリゼーションにとって最も影響の大きい地政学的変化である

✓ デカップリング(decoupling)：分断・切り離し

### 3. 米中デカップリング論の一考察

#### □ どのようにデカップリングは進んでいるのか？

- 2019年国防権限法(NDAA2019)による改革
  1. 輸出管理の強化：「輸出管理改革法(ECRA)」
  2. 投資規制の強化：「外国投資リスク審査現代化法(FIRRMA)」
  3. サプライチェーンにおけるリスク排除：ファーウェイ、ZTE等の通信機器を政府調達から排除
- ファーウェイを対象とした輸出規制
  - 米企業にファーウェイ製品の排除を勧告する大統領令
  - 米国の半導体の禁輸、米国製半導体製造装置やソフトウェアを使ったファーウェイ向け製品の生産の禁止
    - 第3国にも適用されるため、米国法が外国企業の行動も制限する
- 人の移動の制限：中国人研究者へのビザ発給の制限
- 米国民の個人情報保護：Tik Tok, WeChatがやり玉に

### 3. 米中デカップリング論の一考察

#### □ なぜデカップリングを進めるのか？

- 中国で党・国家主導型の経済体制が強化されていること
- 強国化にむけたプロジェクトが官民一体で進められていること
- そのプロセスにおいて米国の技術が「不当に窃取」されていること
- もはや中国では国から独立した企業はありえないとの認識
- さらに、中国の科学技術分野におけるキャッチアップが進んでいることへの警戒感
- 中国の報復措置

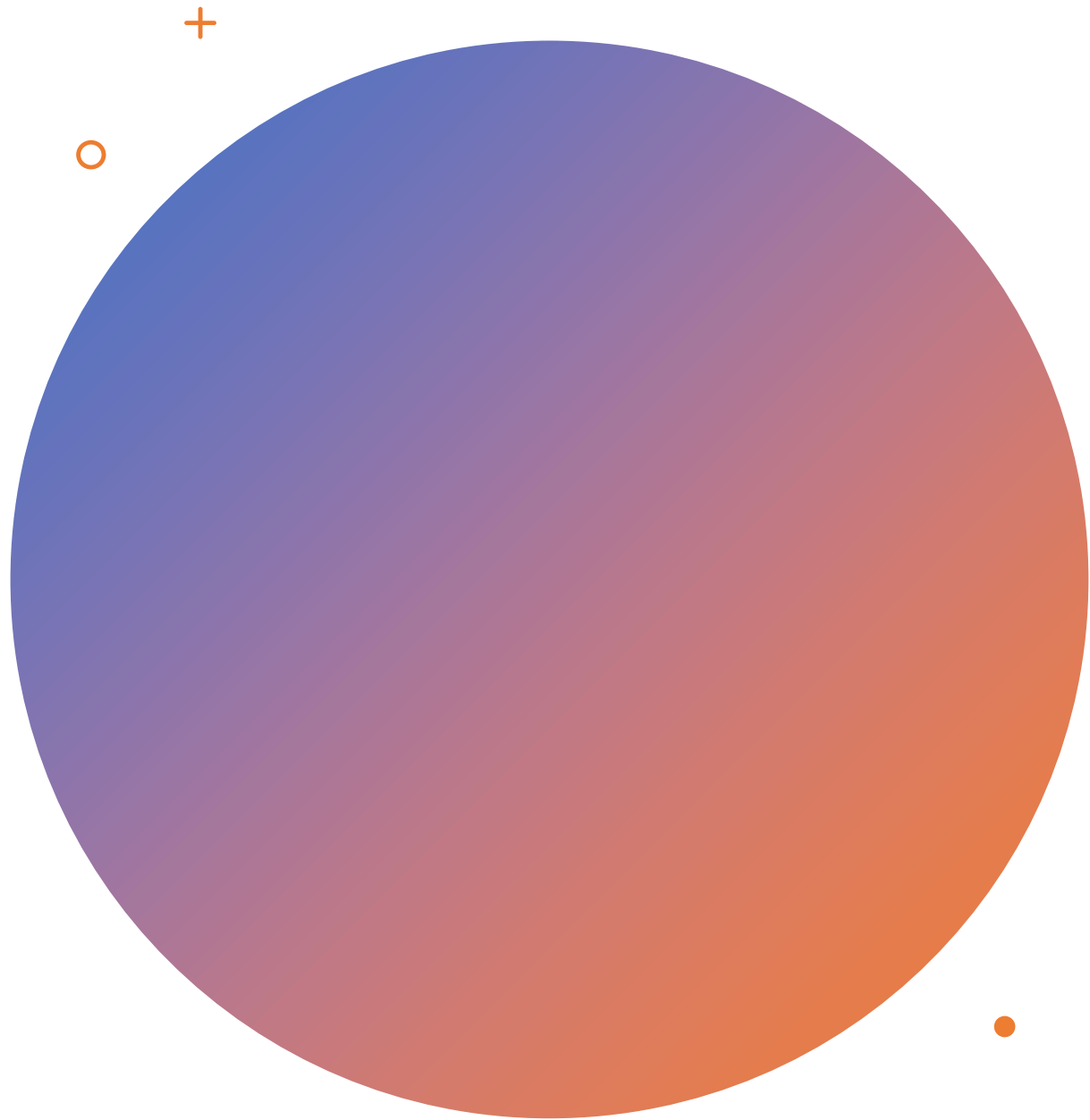
### 3. 米中デカップリング論の一考察

#### □ 企業経営へのインプリケーション

- サプライチェーンマネジメントの複雑化
- 米中両国の輸出管理規制への対応
- 自社の知的財産保護の強化

#### □ 受講生の感想（某ビジネススクール [国際政治経済]）

- なかなか馴染みのない分野でしたが、意外と実務に繋がる部分も多く、大変勉強になりました。
- また、他国の政治状況にも目が行くようになり、自身の視野が大きく広がったように思えます。



□ ご清聴ありがとうございました

